

# 2019年3月期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2019年5月13日

## 概況

旺盛な需要を捉え、売上高、各段階利益とも過去最高を更新  
期末配当を20円から24円に増配、通期では2期連続

## 業績

(単位：百万円)	2019/3 期	前年同期比
売上高	61,238	+ 11.0%
営業利益	6,413	+ 36.5%
当期純利益※	4,064	+ 43.3%

※親会社株主に帰属する四半期純利益 / 為替平均レート 1ドル = 110.9円

## 総括

- ・ 主要市場ではインフラ関連需要が業績を牽引、民間設備投資も底堅く推移
- ・ 中国経済の減速感はあるものの、EV関連を中心とした内需投資は堅調
- ・ 旺盛な需要を捉えるべく、通期にわたって増産体制を継続、利益にも貢献
- ・ グループに加わった欧州子会社との連携により、製品の競争力を強化
- ・ アジアを中心に事業構造の見直しをはかり、収益性が向上
- ・ 基幹システムの稼動は安定し、今後、更なる生産効率の向上を目指す

**1**

## **2019年3月期 決算報告**

**2**

## **2020年3月期 見通し**

**3**

## **参考資料**

- 過去5期分の業績・財務情報（2015年3月期-2019年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）

# 2019年3月期 決算ハイライト

(単位 百万円)	2018/3期	2019/3期	前期比
売上高	55,168	61,238	+11.0%
売上総利益 (売上総利益率)	19,881 (36.0%)	22,545 (36.8%)	+13.4%
営業利益 (営業利益率)	4,698 (8.5%)	6,413 (10.5%)	+36.5%
営業外収益	204	245	
営業外費用	1,111	910	
経常利益 (経常利益率)	3,791 (6.9%)	5,748 (9.4%)	+51.6%
特別損益	—	74	
法人税等	※ 845	1,619	
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	2,836 (5.1%)	4,064 (6.6%)	+43.3%
EBITDA =営業利益+償却費	7,142	9,201	

注 為替レート (2018/3期→2019年/3期) :

USD 110.9→110.9円 CAD 86.5→84.6円 EUR 129.7→128.4円 RMB 16.6 →16.7円

※ 米国減税による一過性の影響として△478百万円を計

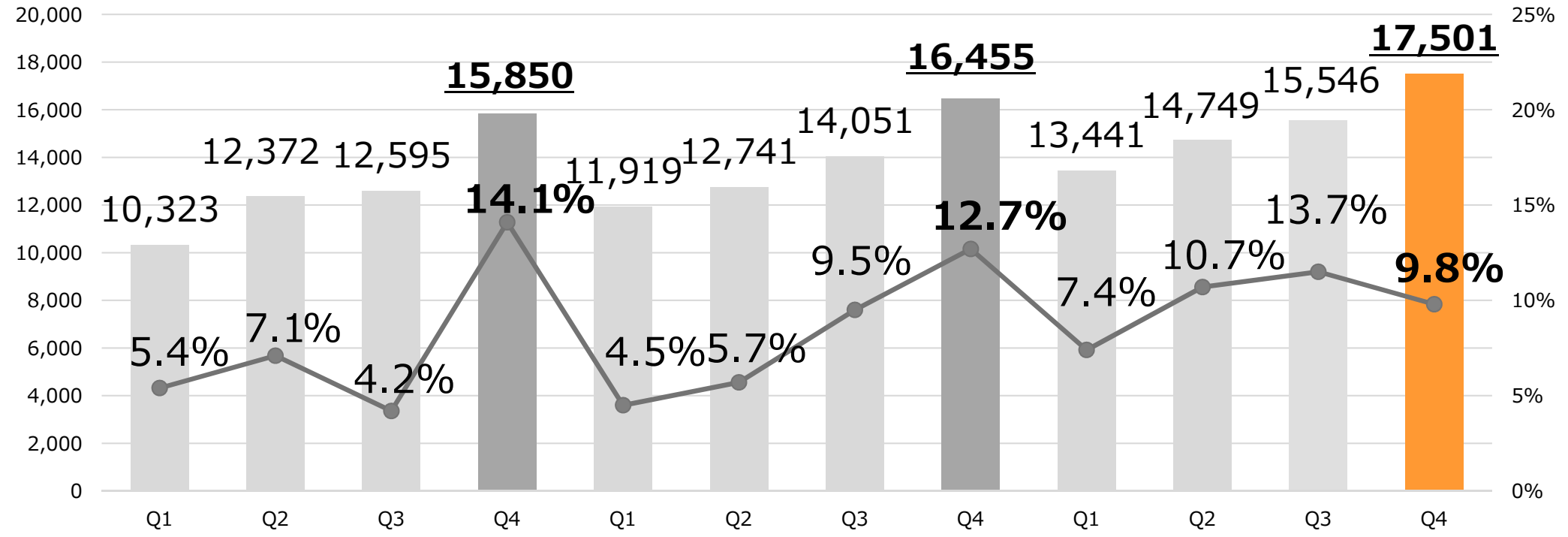
上

# 売上高および営業利益率（四半期比較）

**グローバルでの旺盛な需要が継続し増収、増産効果は利益にも貢献**

(単位：百万円)

■ 売上高    ● 営業利益率



営業利益	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
	561	876	532	<u>2,239</u>	538	730	1,338	<u>2,092</u>	992	1,572	2,131	1,717

**2017/3期**  
売上高 51,141  
営業利益 4,208

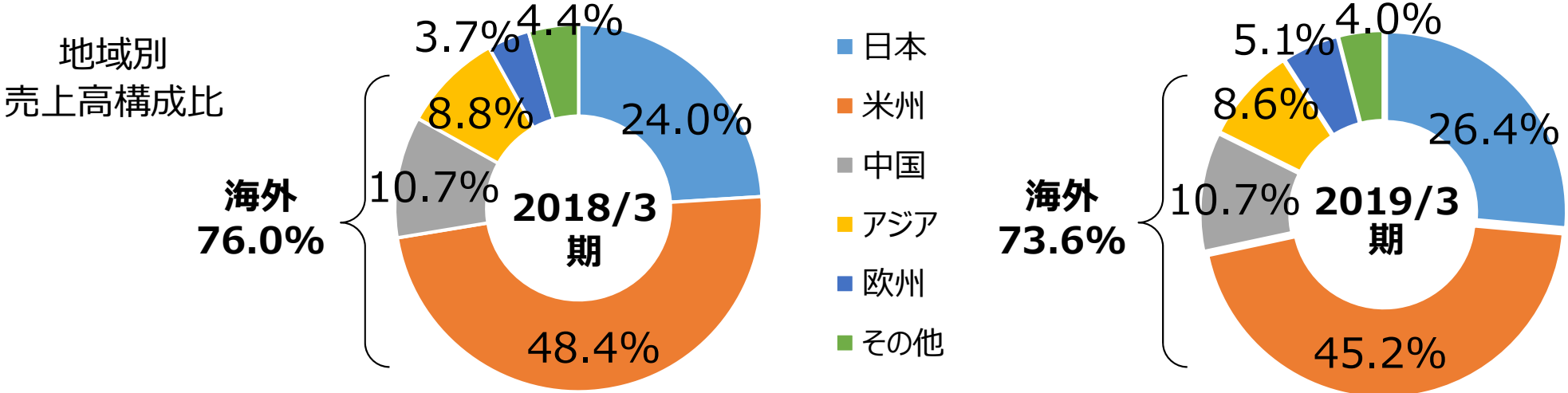
**2018/3期**  
売上高 55,168  
営業利益 4,698

**2019/3期**  
売上高 61,238  
営業利益 6,413

# 地域別の状況

(単位：百万円)	2017/3期		2018/3期		2019/3期		前期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
<b>売上状況</b>	51,141	100.0%	55,168	100.0%	61,238	100.0%	6,070	11.0%
<b>日本</b>	13,129	25.7%	13,261	24.0%	16,162	26.4%	2,901	21.9%
<b>米州</b>	24,742	48.4%	26,700	48.4%	27,663	45.2%	963	3.6%
<b>中国</b>	5,034	9.8%	5,903	10.7%	6,539	10.7%	635	10.8%
<b>アジア</b>	4,925	9.6%	4,837	8.8%	5,239	8.6%	401	8.3%
<b>欧州</b>	1,523	3.0%	2,060	3.7%	3,204	5.1%	1,143	55.5%
<b>その他地域</b>	1,785	3.5%	2,404	4.4%	2,430	4.0%	25	1.1%

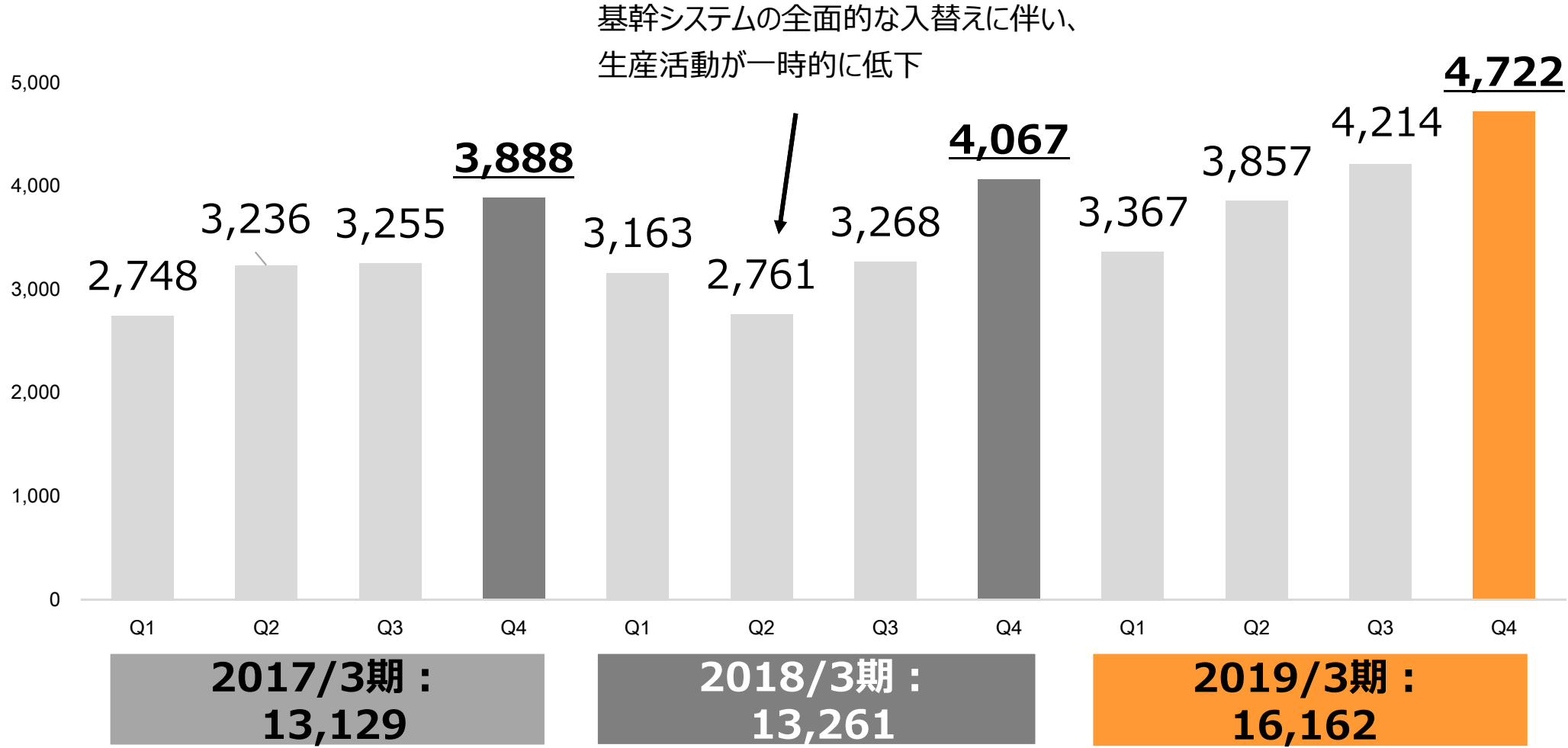
注 為替レート (2018/3期→2019/3期) :  
 USD 110.9→110.9円 CAD 86.5→84.6円 EUR 129.7→128.4円 RMB 16.6→16.7円



# 地域別売上高（日本）

- インフラ関連及び民間設備投資共に、旺盛な需要が継続

(単位：百万円)



# 地域別売上高（米州）

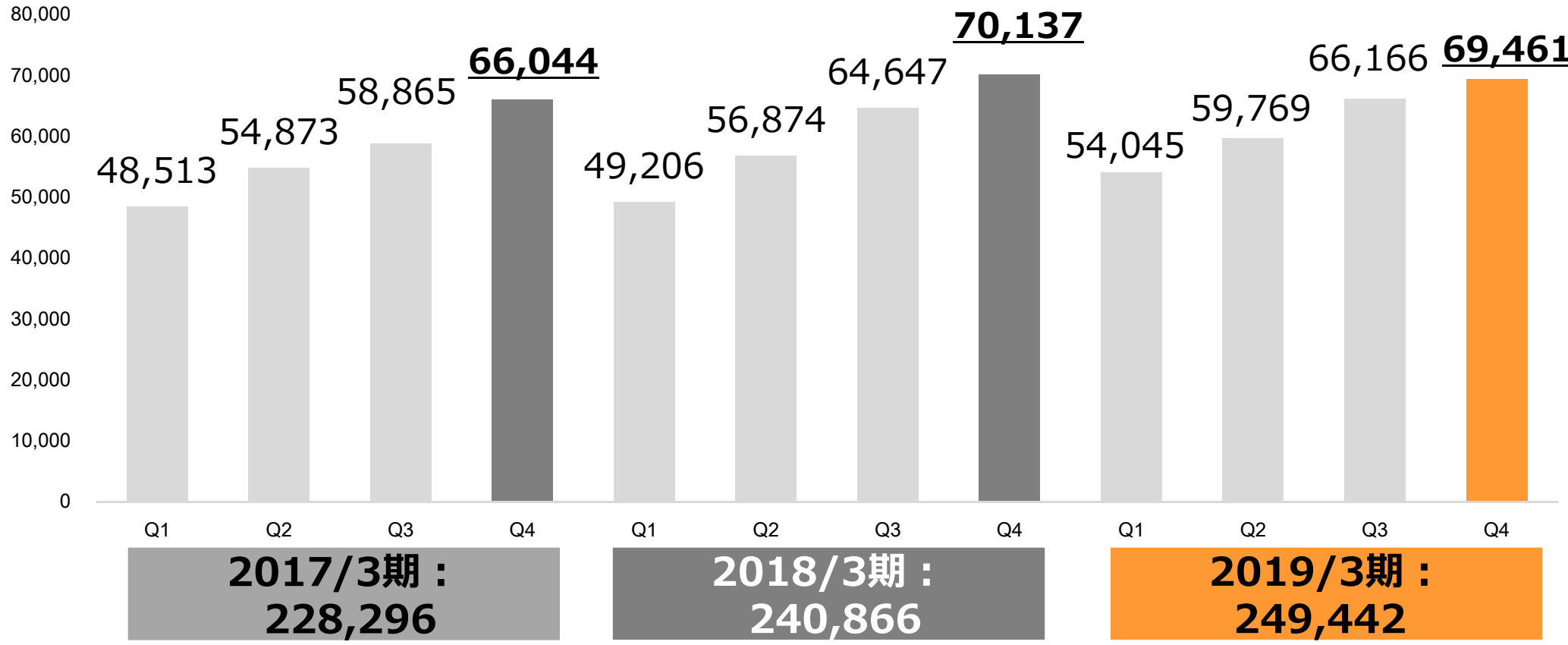
※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USDドル換算）を加算した金額の推移

## ◇米州事業の特徴

日本と同様にホイストを中心としたマテハン事業に加えて、ピアレス社のクサリ関連事業で構成

- 民間設備投資、インフラ関連、資源関連需要とも好調でマテハン事業が伸長
- 対中貿易摩擦、政権運営等による影響、資源価格の動向には注視

（単位：千USD）





# 地域別売上高（中国）

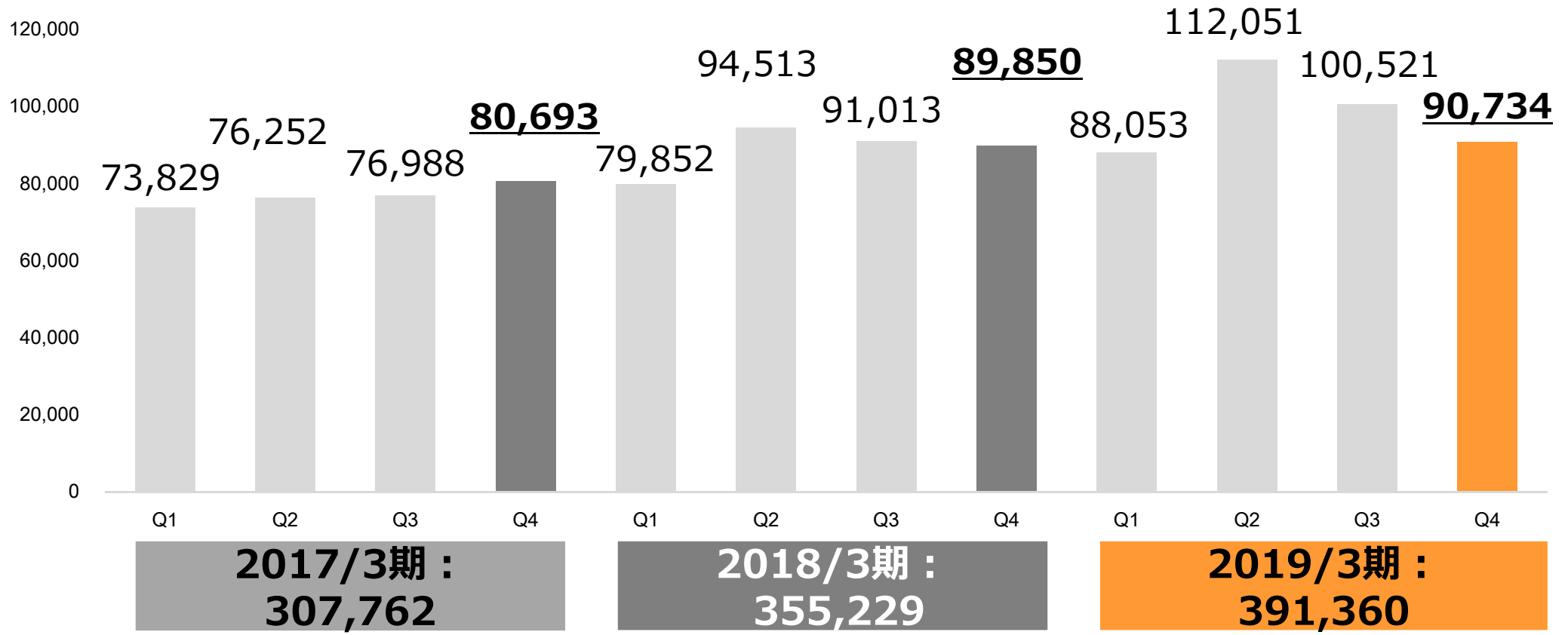
※中国は1-12月決算

## ◇中国事業の特徴：

中国市場向けロープホイストの製造販売と、日本からの高機能製品の輸入販売が事業の2本柱

- 景気減速が顕在化するなか、半導体・EV、電力・鉄道等、好調産業の需要が牽引
- 安全意識の高まりによりシェアは拡大傾向
- 収益性を重視した事業運営により利益は大幅に伸長

(単位：千RMB)



# 地域別売上高（アジア）

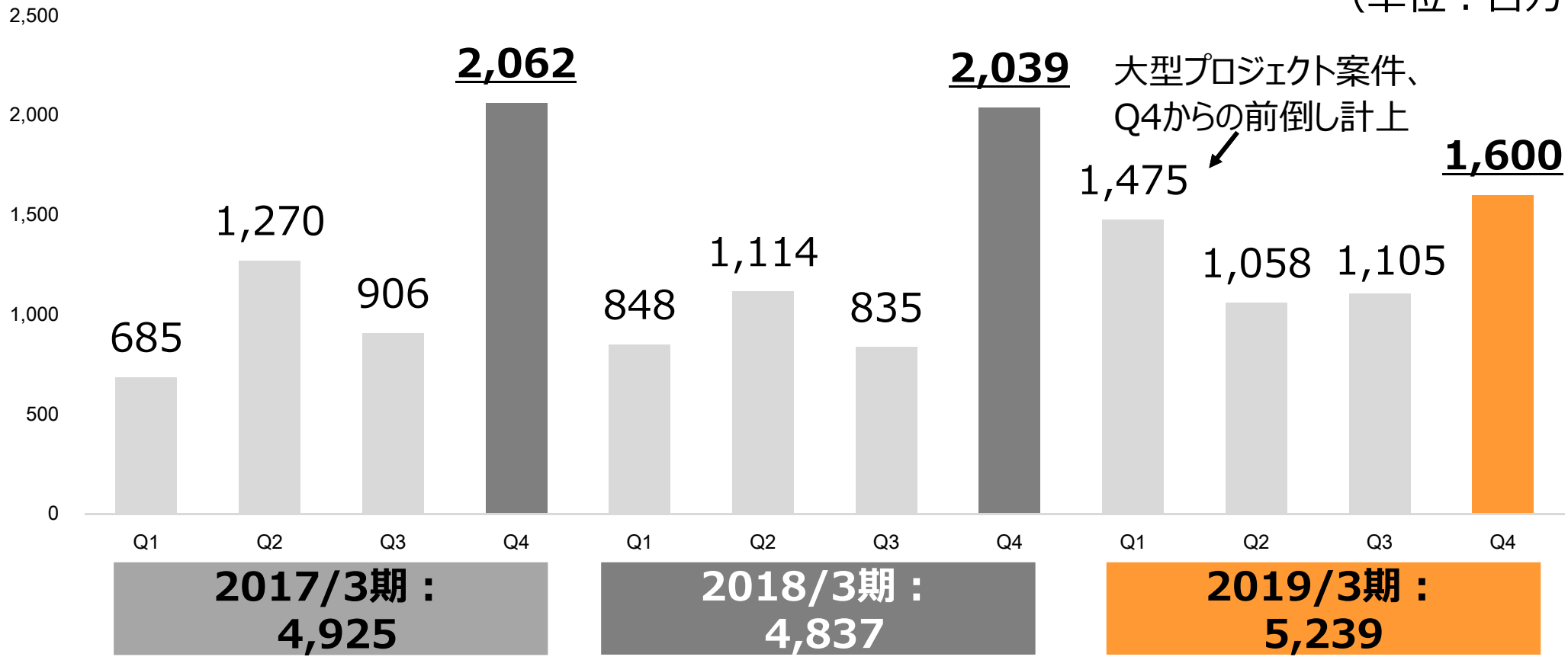
※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

◇アジア事業の特徴：

韓国、タイで、当地域の売上の70%を占める。事業構造を見直し収益性拡大を図る。

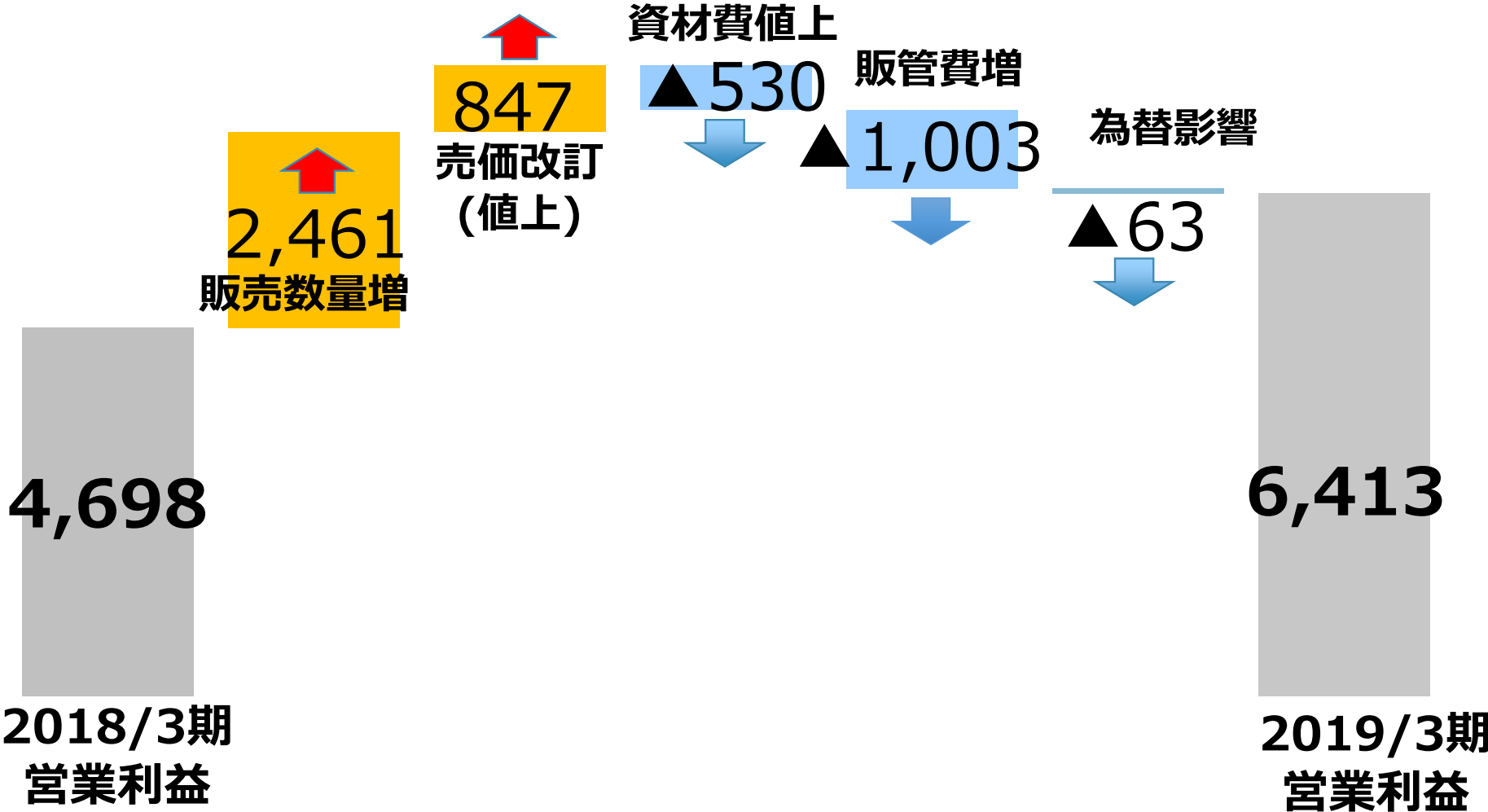
- 東南アジアは自動車関連産業を中心に堅調に推移
- ホイスト販売の拡大に加え、クレーン事業の収益性も大幅に改善
- 韓国における液晶・有機ELディスプレイの需要は大幅に減速

(単位：百万円)



# 営業利益の比較

(単位：百万円)



# 2019/3期 連結貸借対照表（前年同期比較）

単位：百万円	2018/3 期	2019/3 期	増減額
<b>流動資産</b>	38,975	40,524	1,549
現金及び預金	10,780	8,678	▲2,102
受取手形及び 売掛金	11,447	12,587	1,140
たな卸資産	15,503	17,924	2,421
その他	1,243	1,333	90
<b>固定資産</b>	22,879	21,554	▲1,325
有形固定資産	11,549	11,283	▲265
無形固定資産	6,841	6,093	▲747
投資その他の資産	4,488	4,176	▲311
<b>資産合計</b>	61,854	62,078	223

単位：百万円	2018/3 期	2019/3 期	増減額
<b>流動負債</b>	18,616	20,183	1,567
支払手形及び 買掛金	6,143	6,483	340
短期借入金 *	5,719	6,832	1,113
その他	6,753	6,867	113
<b>固定負債</b>	19,541	15,207	▲4,333
長期借入金	15,731	11,962	▲3,768
その他	3,810	3,244	▲565
<b>純資産合計</b>	23,697	26,687	2,989
<b>負債純資産合計</b>	61,854	62,078	223

\* 1年内返済予定の長期借入金を含む

# 連結キャッシュ・フロー

単位：百万円	2018/3 期	2019/3 期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	7,044	3,553	▲3,490
投資活動による キャッシュ・フロー	▲2,191	▲1,580	610
財務活動による キャッシュ・フロー	▲3,083	▲4,279	▲1,196
現金及び現金同等物 に係る換算差額	▲59	▲67	▲7
現金及び現金同等物 の増減額	1,710	▲2,373	▲4,083
現金及び現金同等物 の期末残高	10,769	8,504	▲2,265

## <2019/3期の主な内容>

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益：	5,822
減価償却費：	2,470
売上債権の増加：	▲921
たな卸資産の増加：	▲1,949
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出：	▲1,304
関係会社株式の取得による支出：	▲195
有形固定資産の売却による収入：	328
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増：	1,033
長期借入金返済による支出：	▲4,806

1

2019年3月期 決算報告

2

2020年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2015年3月期-2019年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）

# 2020年3月期の見通し

## 日 本



### 市場環境

- 政府の災害復旧、防災、減災対応、インフラ老朽化対策の推進
- 民間設備投資需要は底堅い推移を見込む

### 取り組み

- 活況なインフラ関連事業にスポットをあてた専任営業を設置
- 効率的なモノづくり実現のために生産ラインの改革に着手

## 米 州



### 市場環境

- 需要は幅広い産業での底堅い推移を見込む
- インフラ関連投資、エネルギー関連産業に期待

### 取り組み

- 納期短縮、質の高いサービスによる顧客満足度向上
- 製品品揃えを拡充し、顧客を取り込む
- チェーン生産能力増強への投資を実施

# 2020年3月期の見通し

## 中国



### 市場環境

- EVを中心とした内需関連の設備投資が好調
- 環境、品質を重視する方向への社会思考の高まり
- 好調業種の設備投資需要を捉え、販売拡大を図る

### 取り組み

- 日本製プレミアムセグメント製品のさらなる需要掘り起こし
- コスト削減による利益改善策を継続

## アジア



### 市場環境

- タイをはじめ、東南アジアにおける設備投資需要は回復基調
- 韓国市場の液晶・有機ELディスプレイ向け投資は減速

### 取り組み

- クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化
- 事業効率化による利益改善策を継続

## 欧州



### 市場環境

- 幅広い産業での緩やかな需要拡大を見込む

### 取り組み

- 子会社、関連会社との相乗効果拡大、さらなる市場の開拓



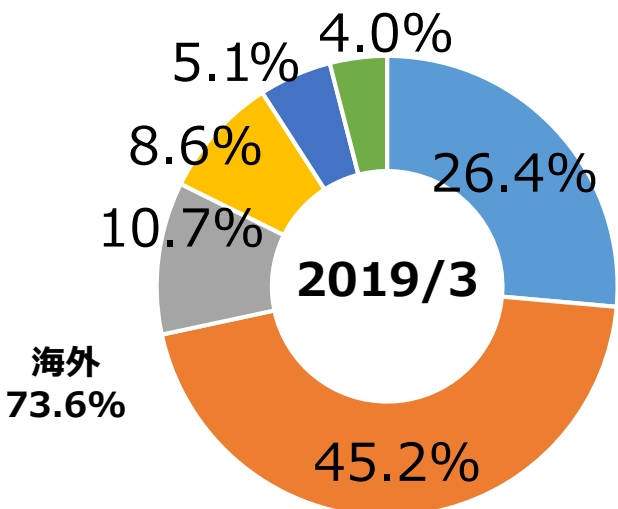
# 2020年3月期 業績予想 (地域別)

(単位：百万円)	2019/3期		2020/3期 (予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
<b>売上状況</b>	61,238	100.0%	62,800	100.0%	1,562	2.5%
<b>日本</b>	16,162	26.4%	16,400	26.1%	238	1.5%
<b>米州</b>	27,663	45.2%	27,800	44.3%	137	0.5%
<b>中国</b>	6,539	10.7%	6,600	10.5%	61	0.9%
<b>アジア</b>	5,239	8.6%	5,100	8.1%	▲139	▲2.7%
<b>欧州</b>	3,204	5.1%	4,400	7.0%	1,196	37.3%
<b>その他地域</b>	2,430	4.0%	2,500	4.0%	70	2.9%

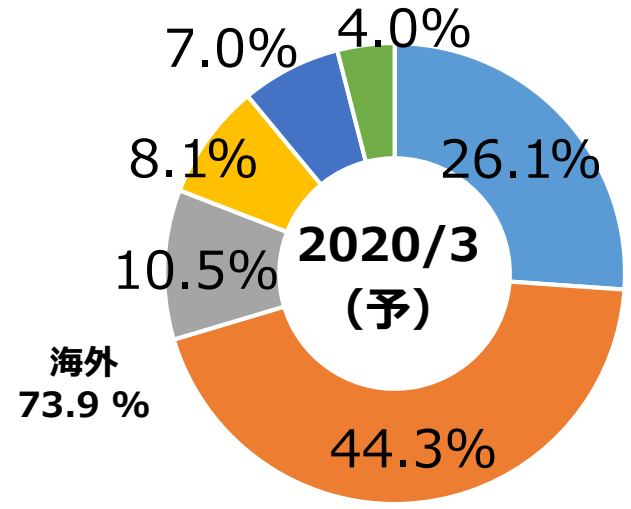
注 為替レート (2019/3期→2020/3期) :

USD 110.9→110.0円 CAD 84.6→85.0円 EUR 128.4→130.0円 RMB 16.7 → 17.0円

地域別  
売上高構成比



- 日本
- 米州
- 中国
- アジア
- 欧州
- その他



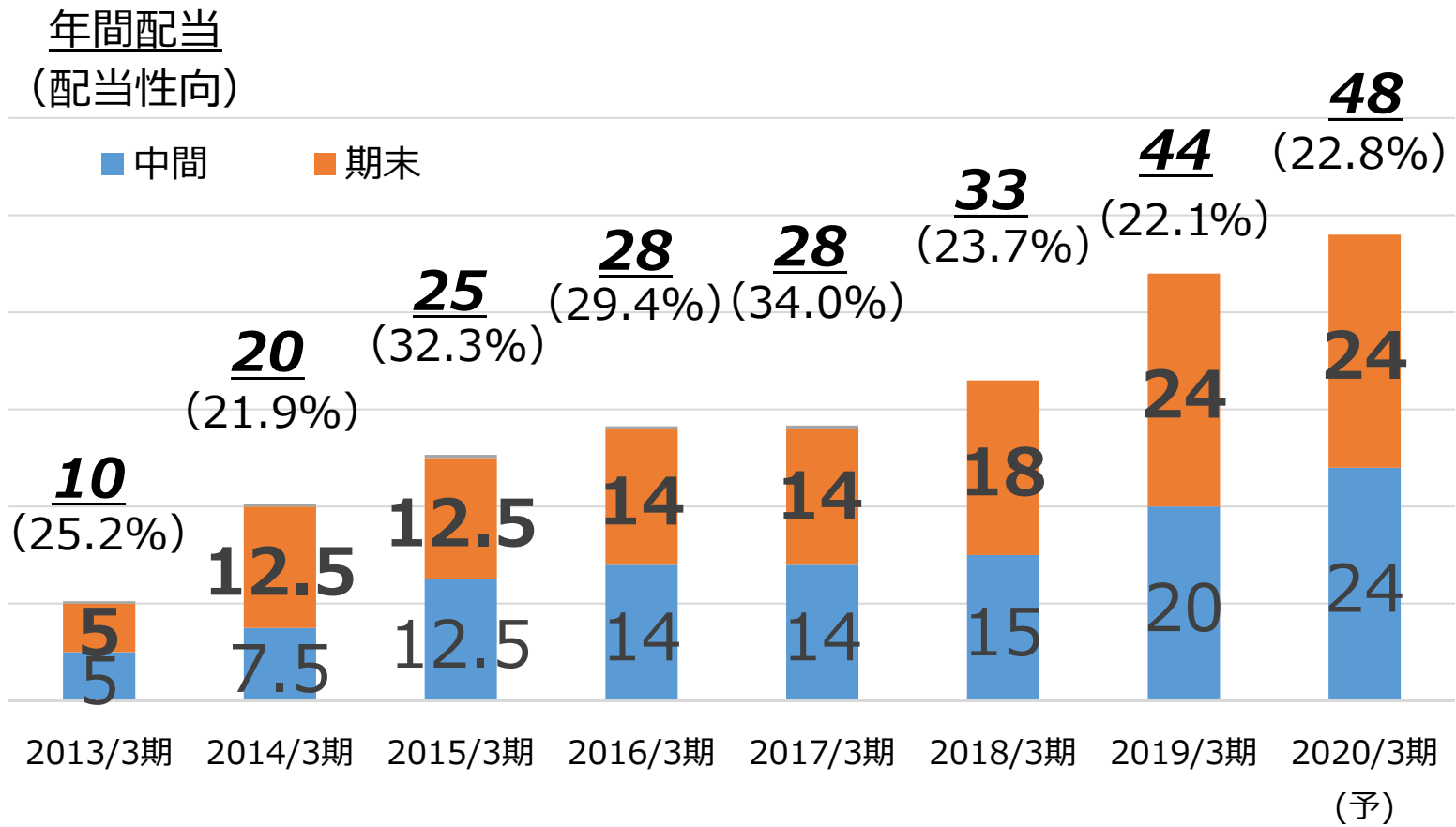
# 2020年3月期 業績予想

(単位 百万円)	2019/3期	2020/3期 (予)	前期比
売上高	61,238	62,800	+2.5%
営業利益 (営業利益率)	6,413 (10.5%)	6,700 (10.7%)	+4.5%
経常利益 (経常利益率)	5,748 (9.4%)	6,400 (10.2%)	+11.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	4,064 (6.6%)	4,300 (6.8%)	+5.8%
EBITDA =営業利益+償却費	9,201	9,800	
設備投資	1,416	4,000	

注 為替レート (2019/3期→2020/3期) :

USD 110.9 → 110.0円 CAD 84.6 → 85.0円 EUR128.4 → 130.0円 RMB 16.7 → 17.0円

## 配当性向20%以上を目処に 年間配当額 44円 から48円に増配予定



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2019年3月期 決算報告

2

2020年3月期 見通し

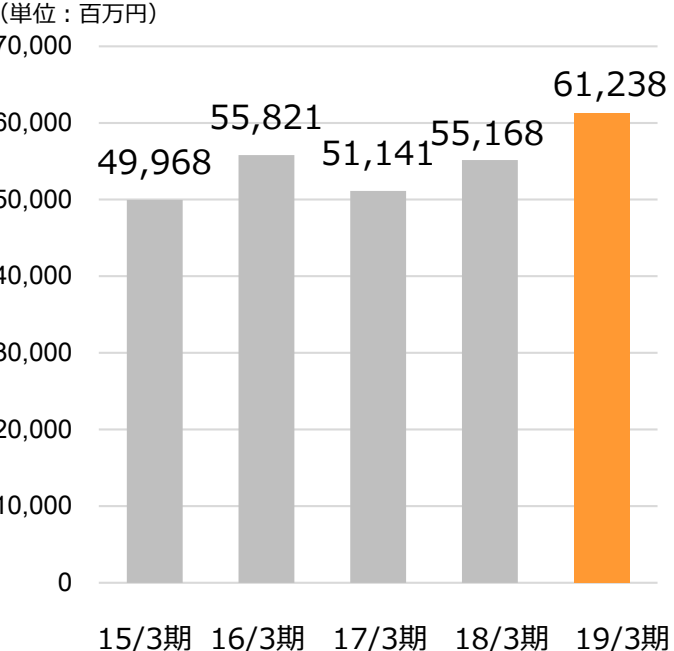
3

参考資料

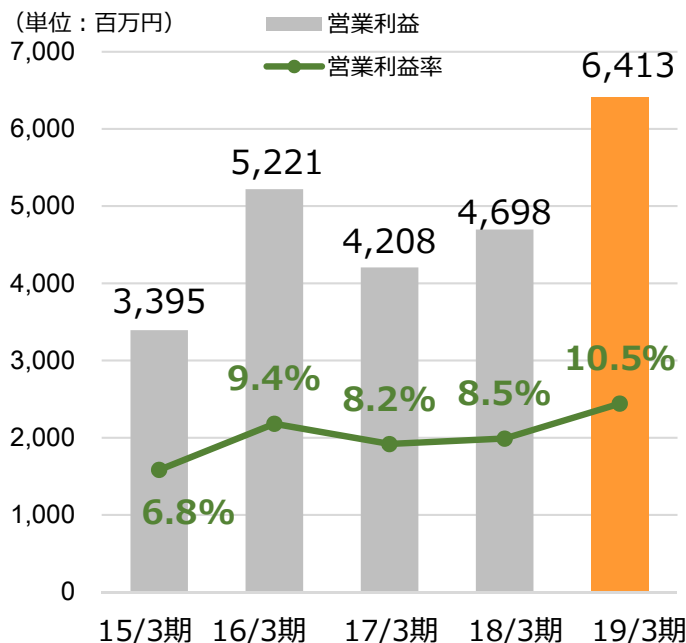
- 過去5期分の業績・財務情報（2015年3月期-2019年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）

# 業績・財務情報

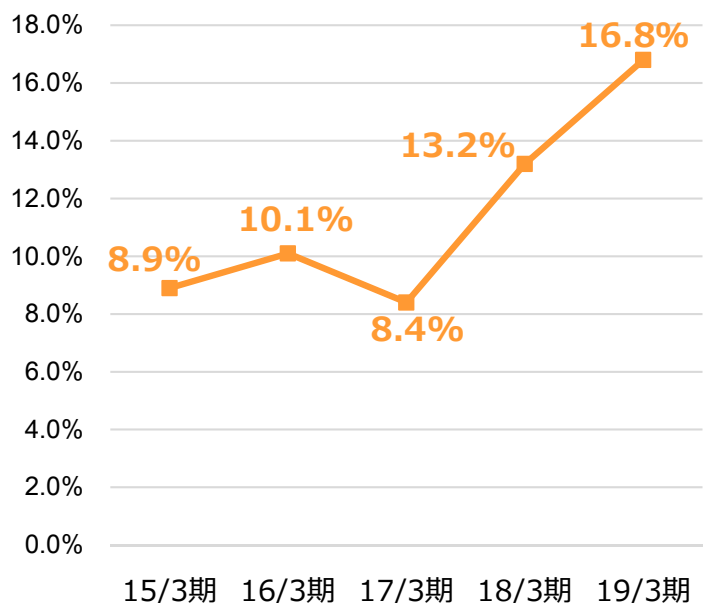
## 売上高



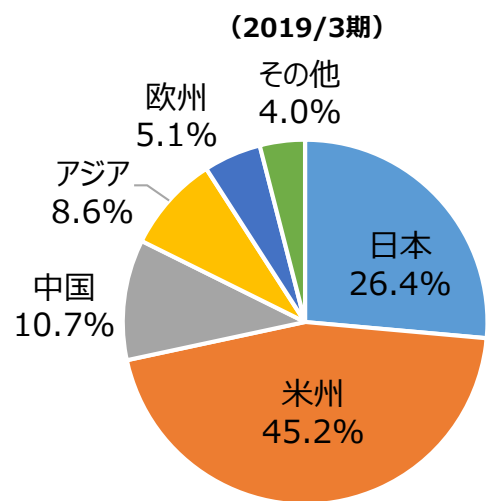
## 営業利益・営業利益率



## ROE



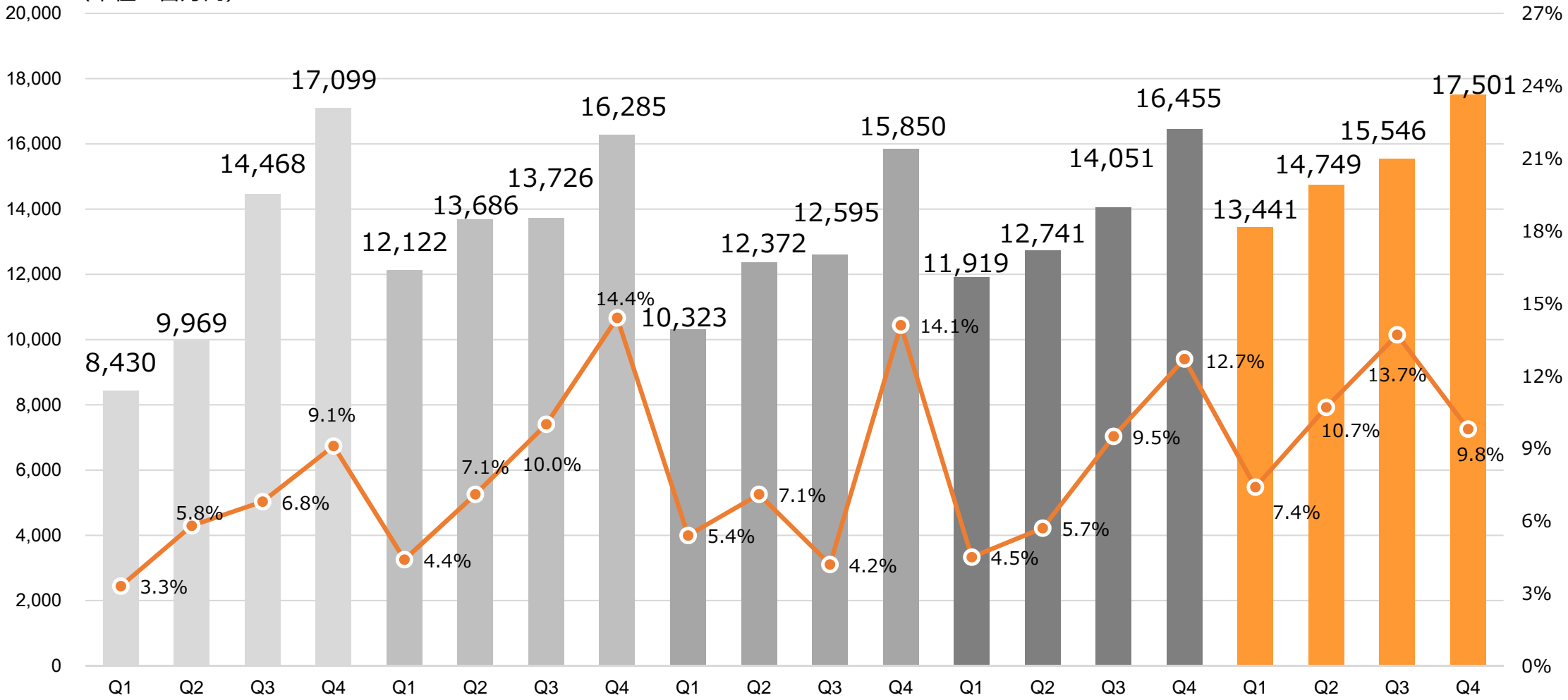
## 地域別売上高比率



	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
海外比率	76.6%	77.3%	74.3%	76.0%	73.6%
為替平均レート					
USD	109.9円	120.1円	108.4円	110.9円	110.9円
CAD	96.5円	91.8円	82.5円	86.5円	84.6円
EUR	138.8円	132.6円	118.8円	129.7円	128.4円
RMB	17.2円	19.2円	16.4円	16.6円	16.7円
設備投資額(百万円)	1,408	2,013	2,393	1,411	1,416
減価償却費(百万円)	1,311	1,814	1,792	2,116	2,470

# 売上高および営業利益率（四半期比較）

(単位：百万円)



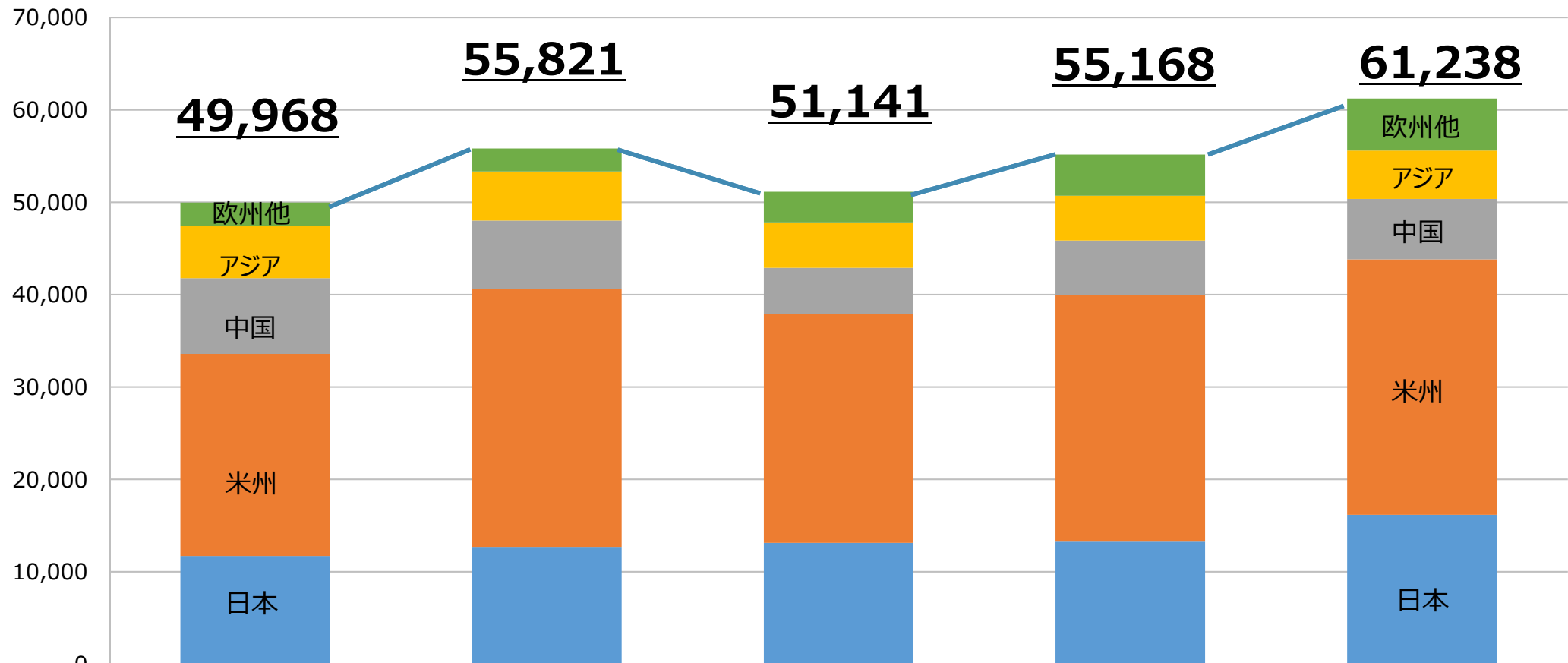
営業利益

280 575 987 1,553 538 966 1,371 2,345 561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717

2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
売上高 49,968	売上高 55,821	売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238
営業利益 3,395	営業利益 5,221	営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413

# 地域別売上高推移

(単位：百万円)



	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
■ 欧州他	2,500	2,479	3,308	4,465	5,634
■ アジア	5,676	5,321	4,925	4,837	5,239
■ 中国	8,198	7,418	5,034	5,903	6,539
■ 米州	21,888	27,909	24,742	26,700	27,663
■ 日本	11,702	12,692	13,129	13,261	16,162

# 中期経営計画 (2017年3月期-2021年3月期)



# 基本方針

## 3つの基本方針による“KITO SPIRIT”を原動力とした推進

- 1) 「顧客満足の上昇」を第1の基本方針とする。
- 2) それを実現する「効率的で機能的な組織」を作る。
- 3) そして、組織を作る「人」への積極的な投資を行う。



## 3つの経営目標に向け 収益倍増を目指す

Financial Target

### 1 高収益体質への回帰

- ・生産設備リニューアル
- ・高収益事業への集中

### 2 製品ポートフォリオ拡充による成長

- ・新製品の投入
- ・M&Aによる拡充
- ・既存製品の新市場への投入加速

### 3 真のグローバル企業への組織進化

- ・グローバル人材の採用と育成
- ・主要拠点における統一基幹システムの導入
- ・グループ内統一マーケティング・データベースの構築

**EBITDA**  
**約2倍増**

**130億円**

**74億円**

2016年3月期

2021年3月期

## “Lifting Expectations”

